



『稻生家妖怪傳卷物』(部分)

『稲生家妖怪傳巻物』

日文研「絵巻物データベース」(<https://lapis.nichibun.ac.jp/ema>)より

小松和彦前所長を中心に収集整理が進められてきた「妖怪」研究に関わるアーカイブ群は、これからも国際日本文化研究センターの財産である。

その中でも妖怪絵巻のコレクションは、「物語」形式と、「絵」として視覚化された「妖怪」表象のコラボレーションの妙が興味深い資料だ。大衆文化研究プロジェクトの製作による、日文研所蔵・妖怪絵巻を現代まんがのコマ割りで構成した「まんが訳」をオンラインで公開しているが、それは「妖怪絵巻」の物語性を際立たせる試みでもある。「酒吞童子絵巻」であれば、ジョーゼフ・キャンベルの単一神話論の如くというべきか、『スター・ウォーズ』の如くというべきか、勇者がパーティを組み奪われた姫君を救出しに行くという、人類普遍の物語の日本ローカライズとしての姿が鮮明となり、「道成寺縁起」であれば、少女まんがを彷彿させる、女性の切ない運命譚だとわかる。

今回、表紙に掲げた『稲生家妖怪傳巻物』は、「稲生物怪録」と呼ばれる物語の類本としては、柏正甫なる人物の序文が付された「柏本」の一つだ。『稲亭物怪録』という挿画付きの系譜に属する点で特徴的だ。ただし、この日文研所蔵のものは逆にテキストがなく、絵のみで構成される。この「まんが訳」も試みた。こちらはいわば妖怪屋敷ものだが、怪異譚、恐怖譚というより、妖怪変化に接しても動じない主人公の飄々とした印象が興味深い物語として読める。

妖怪の物語られ方という視点からも、是非、これらを含めて、妖怪絵巻をオンラインで御鑑賞願いたい。

(解説:大塚英志)